

地域のこと

おひさま進歩エネルギーのある長野県飯田市は南アルプス、中央アルプスに挟まれ、そして天竜川が流れる、山々と水、きれいな空気にめぐまれた自然豊かな地域です。「結」や市民手づくりの文化イベント「いい大人形劇フェスタ」、中学生の発案で始まり今も中学生により手入れされている「りんご並木」など、地域の人々は厳しい自然の中でも互いに助け合いながら、独自の文化を育んできました。

1996年の「環境文化都市宣言」、リサイクルな産業が立地する「環境産業公園」の整備など、全国に先駆けて環境政策に注力し、「おひさまとまりが育む低炭素で活力あふれる環境モデル都市」として国から「環境モデル都市」にも選定されています。

全国トップクラスの日射量にも恵まれ、全国最多368ヶ所の市民共同発電所（市民出資型の太陽光発電所）があります。

私たちのおひさま発電所は地域の豊かな自然と人々のつながりによって育まれたものです。大正時代に日本初の組合型の小水力発電事業が興されたのも飯田市でした。2018年には「市民・地域共同発電所全国フォーラム」の記念すべき第10回大会が開催されました。



沿革

- 2003年** 「地球温暖化防止するため、市民としてできることをやらまいか!」と、NPO 南信州おひさま進歩を発足。寄付を募って、3kWのパネルを保育園の屋根に設置した。
- 2004年** その環境 NPO を母体に、「おひさま進歩エネルギー有限公司」を設立。
- 2005年** 全国初の大規模な太陽光発電の市民出資「南信州おひさまファンド」を募集（延べ 476 名から出資総額2億 150 万円）し、飯田市の公共施設屋根を借りてパネルを設置し、発電事業をスタート。民間と行政が協力した「新しい公共」のモデルとなる。
- 2007年** おひさま進歩エネルギー有限公司から、ファンド事業のためのおひさまエネルギーファンド株式会社、そしておひさま進歩エネルギー株式会社を設立。飯田市の周辺部にエリアを広げ、屋根貸し太陽光発電だけでなく、高効率空調設備の導入など省エネルギー事業や、バイオマスの熱事業にも取り組む。
- 2009年** 家庭向けに太陽光パネルを設置する「おひさま0円システム」を開始。市民個人へのサービスに広がった。
- 2011年** 3.11 福島原発事故を契機に、全国からインターン生やコンサルティング依頼があり、他地域支援を積極的に開始する。
- 2012年** 固定価格買取制度を活用して太陽光発電パネルを設置する「メガさんぽプロジェクト」を開始。工場や学校等の広い屋根を借りて全量売電を実施した。
- 2013年** 市民出資型の市民共同発電所の取り組みが評価され、環境大臣表彰を受賞。
- 2014年** 事務所を旧飯田測候所に移転。80年間の気象観測の歴史を受け継ぎ、飯田市の環境学習拠点として運営。
- 2014年** 飯田市の地域環境権条例による地域公共再生可能エネルギー事業認定第1号として、駄科コミュニティ防災センターにパネルを設置。
- 2016年** 飯田自然エネルギー大学を開校。
- 2018年** 地域の自然エネルギー電力を地域内で販売し、地域経済循環やまちづくりを行う新電力会社「飯田まちづくり電力株式会社」を、株式会社飯田ケーブルテレビ、株式会社飯田まちづくりカンパニーと共同出資して設立。
- 2018年** 創業者が退任し、新たな役員体制を構築。
- 2019年** 「まちをつくる。あたらしい 緑のエネルギー」をコンセプトに、おひさま進歩エネルギー株式会社の第2章始まる。



おひさま進歩エネルギー株式会社



〒395-0027
長野県飯田市馬場町 3-411(旧飯田測候所内)
TEL: 0265-56-3711 FAX: 0265-56-3712
URL: <http://ohisama-energy.co.jp/>
Email: info@ohisama-energy.co.jp

- ・ 自家用車 中央道 飯田 IC から飯田市中心市街地方面へ15分
- ・ 高速バス 東京@バスタ新宿から飯田商工会館まで、約4時間30分
名古屋@名鉄バスセンターから飯田商工会館まで、約2時間
- ・ 電車 JR 飯田線 飯田駅から徒歩15分

おひさま進歩エネルギー株式会社